

公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	ひなた北千里		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日 ～ 2026年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日 ～ 2026年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 5月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ひなた北千里を利用する子どもたち一人一人のことを考え、共有し、モニタリング(最近の姿や課題の共有)や個別支援会議(原案の共有)をスタッフ全員で行っている。	それぞれの児童指導員のこれまでの経験や知識を元に、児童発達管理責任者のみの視点だけではなく様々な指導員の視点を吸い上げるための工夫(スタッフ間のコミュニケーション)を常に考えている。  ・全スタッフの揃う場で個別支援計画更新に関わる会議を行う	・個別支援計画が保護者の方のニーズや子ども自身の願いが込められた内容になるように、支援者間だけではなく保護者、相談支援員、本人とも連携と取るようにしていく。
2	子どもたちの将来のために多様な取り組みを行っている。  未就園児に関しては母子分離の第一歩としての役割と、保護者のレスパイトや同じ悩みを共有できる保護者同士の交流を促すことにも力を入れている。ご家庭で保護者の方のみが背負うには負担が大きい部分をサポートできるように保護者支援を大切にしている。  ・就園児に関しては、保育園や幼稚園のなかでは手の届きにくい部分を細やかに寄り添うように意識している。	子どもたちが楽しみながらたくさんの経験を積むことができるように、「やってみたい」と思える活動内容と手立てを考えている。  ・室内活動…調理・工作・運動・ルールのある遊びなど ・屋外活動…公共交通機関の利用・買い物・プール・山登りなど  ・幼稚園や保育園で苦手さを感じている活動などを、ひなた北千里の取り組みのなかで行い出来た手ごたえを詰めるような手立てを考えている。	「楽しい」と実感できる取り組みをベースにしながらも、幼稚園・保育園などの大きな集団でもその子のもつ力を発揮していけるようにサポートしていく。  ・活動を通して身に付けて欲しいスキルなどをスタッフ間で共有しスモールステップで一つ一つ積み上げていく
3	利用児童の人数や活動内容に応じた人員配置や活動場所の振り分けを行っている。  未就園児に関しては小集団で、信頼できる大人やお友達との刺激から「やってみたい」を引き出せるようにみんな遊びを行うと共に、自分の好きな遊びを保障する自由遊び、人と関わる部分の基礎を築くための個別抜き出し療育など多岐に渡る活動を提供している。	安全に活動できることを最優先にしながらも、子どもたちに丁寧に関わる人数でグループ分けを行い、室内活動グループと屋外活動グループに分かれて活動している。  ・分かれて少人数で活動するパターンと、全員で活動するパターンを意図的に考えて活動内容を考えている。 ・未就園は自由遊び、みんな遊び、個別抜き出し療育	・保護者の方だけではなく、相談支援員や園の先生方との連携を図る

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害時・非常時の対応	業務が多い ↓ 膨大な業務の合間で法人にも協力をお願いしながら、避難訓練や備蓄用品の管理、義務研修など協力体制を整えていく。	・非常時においては、子どもを安全に保護者の方に引き渡すことを最優先にシミュレーションを行う。 ・真夏、真冬の時期に停電し空調が機能しない状況でも保護者に安全に引き渡すまで子どもの命を守るためのシミュレーションを備蓄品の準備を行う。 ・避難所において安全に過ごす手立てをシミュレーションする。
2	地域に開かれた事業所にする	イベントや交流会の企画はできて、周知することの難しさを実感している。	・SNSや公式ラインを活用しながら、周知できるようにしていく。
3	保護者間交流の実施	普段の業務量の多さから、取り組めていない。 法人スタッフや保護者の方にも協力を仰ぎながらコンスタントに開催する仕組みを作る必要がある。	母親たちのお喋りイベント「ひだまり」を通して、 ①保護者間の交流や情報共有の場を提供する ②ひなた北千里の保護者以外にも参加できるイベントを開催し、地域に開かれた事業所にする という二つの取り組みを実現する。 ・コンスタントに開催できるように整える。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名 ひなた北千里

公表日 2026年 5月 15日

利用児童数 14

回収数 8

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	2				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7	1				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	0				
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	0				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7	1				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6	1		1		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	1		1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	1		1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	1	2	3		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	1				
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6	1		1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	2		1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	8					

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	1	1	2		
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	2				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	1	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	3		2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	1		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7			1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7			1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	8					

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		ひなた北千里		公表日		2026年 5月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0			
	5	4	3	1			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	0			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	1			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	0		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	2			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	0			
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0			

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	1		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	1		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	4		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	1		
	53	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、その結果について従業者に周知徹底しているか。	3	1		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	0			